

想定した経営類型 かんきつ專業大規模経営(露地、SS防除体系)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模	経営・技術の特徴
かんきつ 專業 露地500a (SS防除 体系)	人	a	1.露地みかんと中晩柑を組み合わせ たかんきつ專業経営 2.普通温州は高糖度系温州を主体と し、ヒリュウ台苗木を導入 3.園内道を一体的に取り付け、スピード スプレー(SS)と肥料散布機を導入 4.みかんは堆肥ペレット入配合肥料、 中晩柑は一発肥料を使用 5.周年雇用体系による大規模経営 6.マルチ巻上げ装置の導入による被 覆面積の拡大と作業の省力化 7.コンテナハンドリフトとコンテナダンパによるコン テナ積み上げ・選果作業の省力化 8.せん定枝粉碎機によるせん定枝搬 出作業の省力化
	3.0	極早生温州SS防除 20 早生温州SS防除 200 させぼ温州SS防除 100 普通・高糖度系温州SS防除 130 不知火SS防除 30 津之望SS防除 20 合計 500 経営耕地面積 樹園地 500a	
経営目標	1 農業総収入 39,847 千円 2 農業経営費 27,667 千円 3 農業所得 12,180 千円	4 1日当たり農業所得 16,366 円 5 1人当たり年間労働時間 1,985 時間	

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格 千円	耐用年数	年間償却額 千円
建物・施設	作業収納舎100㎡	1	軽量鉄骨	1	9,451	24	394
	予措貯蔵庫66㎡	1	軽量鉄骨	1	6,238	24	260
	園内道(単位10a)	50	2.0m幅、部分的に舗装	1	7,500	15	250
	計				23,189		904
農機具	スピードスプレーヤ(SS)	1	4WD-4WS 1,000L 49kw	1	6,354	7	454
	トラック(普通)	1	2t積み	1	3,500	5	350
	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1	1,500	4	188
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き	1	389	4	49
	動噴	1	30L/min、自動並列巻取装置付	1	303	7	22
	肥料散布機	1	プロトトキャスタ(自走式)2.3Kw、200ℓ	1	533	7	38
	せん定枝粉碎機	1	7.2kw	1	602	7	43
	刈払い機	3	排気量20.6cc	1	102	7	7
	選果機	1	ドラム式	1	349	7	25
	コンテナダンパ・ボックス付昇降機	1	選果機の付属装置	1	585	7	42
コンテナハンドリフト	1	天井レール式(高さ5.1m)、標準30kgコンテナ用フック	1	1,150	7	82	
計				15,367		1,299	

3-1. 技術体系(極早生温州):かんきつ専業 I に準ずる。(474~475ページ参照)

3-2. 技術体系(早生温州):かんきつ専業 I に準ずる。(476~477ページ参照)

3-3. 技術体系(させぼ温州):かんきつ専業 I に準ずる。(478~479ページ参照)

3-4. 技術体系(普通・高糖度系温州):かんきつ専業 I に準ずる。(480~481ページ参照)

※ただし、施肥および収穫出荷については下記のとおり

3-1. 技術体系(極早生温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
施肥	春肥	3/上	肥料散布機	1	1.5	1.5	堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)80kg 堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)120kg	<ul style="list-style-type: none"> 肥料の施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 年間の窒素施肥割合 春肥 40% 初秋肥 30% 秋肥 30% 樹勢回復のため、秋肥は2回に分けて施用する。
	初秋肥	10/上						
	秋肥	10/下						
収穫出荷	収穫	9/下 ~ 10/中	トラック	3	16	48	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 出荷基準に達した果実から分割採取する。 適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 家庭選果の徹底に努める。 コンテナダンパ活用による選果作業の省力化を図る。
	選別出荷			2	5	10		

3-2. 技術体系(早生温州)

施肥	春肥	3/中	肥料散布機	1	1.5	1.5	堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)70kg 高度化成肥料(N:16%)40kg 堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)80kg	<ul style="list-style-type: none"> 肥料の施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 年間の窒素施肥割合 春肥 33% 夏肥 30% 秋肥 37% 隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
	夏肥	5/下						
	秋肥	11/下						
収穫出荷	収穫	10/下 ~ 11/下	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 家庭選果の徹底に努める。 コンテナダンパ活用による選果作業の省力化を図る。 プレ選果利用による家庭選果の簡素化を図る。
	選別出荷			2	2	4		

3-3. 技術体系(させぼ温州)

施肥	春肥	3/中	肥料散布機	1	1.5	1.5	堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)70kg 高度化成肥料(N:16%)40kg 堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)90kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の種類、施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 30% 夏肥 30% 秋肥 40% ・隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
	夏肥	5/下						
	秋肥	11/下						
収穫出荷	収穫	11/下 ~ 12/中	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 ・家庭選果の徹底に努める。 ・コンテナダンパ活用による選果作業の省力化を図る。 ・プレ選果利用による家庭選果の簡素化を図る。
	選別出荷	12/中 ~ 2/上		2	2	4		

3-4. 技術体系(普通・高精度系温州)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
施肥	春肥	3/下	肥料散布機	1	1.5	1.5	堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)110kg 高度化成肥料(N:16%)40kg 堆肥ペレット入配合肥料(N:10%)120kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 35% 夏肥 25% 秋肥 40% ・隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
	夏肥	5/下						
	秋肥	11/下						
収穫出荷	収穫	12/上 ~ 12/下	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 ・貯蔵に当たっては3%程度の予措を行う。 ・貯蔵温度5~6℃、湿度80%を目標とする。 ・入庫量は250~300kg/m²とする。 ・家庭選果の徹底に努める。 ・コンテナダンパ活用による選果作業の省力化を図る。 ・プレ選果利用による家庭選果の簡素化を図る。
	選別出荷	12/中 ~ 2/上		2	4	8		

3-5. 技術体系(不知火): かんきつ専業 I に準ずる。(482~483ページ参照)

※ただし、施肥および収穫出荷については下記のとおり

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
施肥	春肥	3/上	肥料散布機	1	2	2	配合肥料(一発肥料) (N: 16%)160kg	<ul style="list-style-type: none"> 一発肥料を使用 施肥量が多すぎると細根が少なくなり、酸含量の減少が遅れるので注意する。
収穫出荷	収穫	1/中 ~ 2/下	トラック	2	22	44	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 収穫前に雨が多いと水腐れ症が発生するので、収穫時が多雨の年は早めに収穫する。 収穫時に凸部分にハサミ傷をつけないよう注意する。 コンテナの底にマットを敷き、果実は転がさないよう注意する。
	選別出荷	3月		2	9	18		

3-6. 技術体系(津之望 露地)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐 整枝 せん定	2~3月	トラック	1	15	15	支柱 結束用ひも 2巻	<ul style="list-style-type: none"> 主枝は支柱を立てて誘引し、先端は切り返して新梢発生を促す。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	2~3月	トラック	2	4.5	9	堆肥 3t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> 土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	6	6		<ul style="list-style-type: none"> 除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。 使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤 散布	6~7月	動噴	2	2	4		
施肥	春肥	3/上	肥料散布機	1	2	2	配合肥料(一発肥料) (N: 16%)160kg	<ul style="list-style-type: none"> 一発肥料を使用 施肥量が多すぎると細根が少なくなり、酸含量の減少が遅れるので注意する。

防除	薬剤散布	2 ～ 12月	SS	1	8	8	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数にはできるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。 ・ウイルスによる樹勢低下を防止するため、優良苗(M16A苗)を導入する。 	
摘果、 枝つり	粗摘果	6/上 ～ 6/下		1	25	25	支柱 結束ひも 摘果ノギス	<ul style="list-style-type: none"> ・早期摘果に重点をおき、果実の肥大促進に努める。 ・結果部位は中～下部を主体とし、上部は着果制限をして、樹勢維持に努める。 ・最終的な着果程度は11果/m3を目安とする。 	
	仕上げ 摘果	7/下 ～ 8/上		1	10	10			
	樹上 選果	8～9 月		1	14	14			<ul style="list-style-type: none"> ・果実肥大促進、品質向上、枝折れ防止を目的に、摘果と並行して枝つり、玉つりを行う。
	枝つり	9～ 10月		1	6	6			
(袋か け)		11/下 ～ 12/上		(1)	(24)	(24)	(果実袋サンテ 6,000枚)	<ul style="list-style-type: none"> ・(酸含量が高く、収穫が2月以降になる場合は、寒害及び鳥害防止のため、部分的に果実袋をかける。) 	
収穫 出荷	収穫	1/中 ～ 2/下	トラック	2	22	44	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前に雨が多いと水腐れ症が発生するので、収穫時が多雨の年は早めに収穫する。 	
	選別 出荷	3月		2	9	18			
貯蔵	予措 貯蔵	1～3 月		1	6	6	コンテナ ポリ袋	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5%程度の予措を行い、貯蔵後、酸含量が減少してから出荷する。 ・入庫量は250kg/m2程度とする。 ・貯蔵温度は6～8℃、湿度は85%を目安とする。 ・3月以降まで貯蔵する場合はポリ個装を行う。 	
新梢管 理	芽かき 枝抜き	4～6 月		1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・生理落果を防止するため、開花前の芽かきや生理落果前のかぶさり枝の除去を行う。 ・幼木期は芽かきを行い、樹冠の拡大に努める。 	
その他	道路・ 排水溝 整備、 防風樹 管理、 灌水等	1～ 12月	小型運 搬車、 トラック	1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつにより落葉のおそれがある場合は灌水し、株元に敷きわらをする。 ・園内外の排水溝を整備して、園内の排水を促す。 ・防風樹は、遮蔽率70～80%程度に刈り込む。 ・園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壌流亡を防ぐ。 	
計						186		(作業時間の中には袋かけの労力は含まれていない。)	

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
極早生温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓	↓ マルチ被覆 摘果			☆	◆◆◆◆ 初秋肥 秋肥		
早生温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓		マルチ被覆 摘果	☆		◆◆◆◆ 秋肥	
させぼ温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓		マルチ被覆 摘果	☆		◆◆ ◆◆ 秋肥	
普通・高糖度系温州 (マルチ)	土壤改良	◆ せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓		マルチ被覆 摘果	☆		◆◆ ◆◆ 秋肥	
不知火 (露地)	■	◆ 土壤改良	◆ せん定 春肥	↑ 草刈	※ ↓	↓ 摘果			枝つり	☆		
津之望 (露地)	■	◆ 土壤改良	◆ せん定 春肥	↑ 草刈	※ ↓	↓ 摘果			枝つり	☆		

注) 生育ステージ記号 ↑:発芽 ※:開花 ↓:生理落果 ☆:着色始め ■:収穫 ◆:出荷

5. 作業別・旬別労働時間(10a当り時間)

1) 畑産生温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	9	9	10	10	11	11	12	計
開作せん定		2	3	3	3	3	3	3	2																		16
土層改良	4	3								2								1.5									7
草生管理									2												1.5						7.5
マルチ管理									6													0.5					1.5
施肥										0.5													0.5				0.5
防除									1																		0.5
摘果																											8.5
収穫出荷																											4.0
その他									2																		1.5
計	0	0	4	5	3	3	3	3	5	4	4.5	2	1	2.5	6	3	1	10	8.5	1	0	8	11.5	0	0	0	0
月計	4										7.5			19.5													162.5

2) 早生温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	9	9	10	10	11	11	12	計
開作せん定		2	3	3	3	3	3	3	2																		16
土層改良	4	3								2																	7
草生管理									2																		8
マルチ管理									6																		7.5
施肥										0.5																	1.5
防除									1																		0.5
摘果																											8.5
収穫出荷																											4.0
その他									2																		1.5
計	0	0	4	5	3	3	3	3	5	4	4.5	2	1	2.5	6	3	1	10	8.5	1	0	8	11.5	0	0	0	0
月計	4										7.5			14													161.5

3) 本社生温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	9	9	10	10	11	11	12	計
開作せん定		2	3	3	3	3	3	3	2																		16
土層改良	4	3								2																	7
草生管理									2																		8
マルチ管理									6																		7.5
施肥										0.5																	1.5
防除									1																		0.5
摘果																											8.5
収穫出荷																											4.0
その他									2																		1.5
計	0	0	4	5	3	3	3	3	5	4	4.5	2	1	2.5	6	3	1	10	8.5	1	0	8	11.5	0	0	0	0
月計	4										9.5			14													165.5

4) 普通・高齢者養老州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
団体若年定		21	33	2									16
土壌改良	4	31	3										7
草生管理				2			2		1				9
アಳ管理				0.5	6			0.3				1	7.3
施肥					0.5							0.5	1.5
防除						1	11		1				13
雑草				0.5					0.5				1
収穫出荷	3	2	1						5	5			15
その他			2	2	2								6
計	3	2	6	6	3	3	3	2.5	5.5	5	0	1.5	16.5
月計	11	12	12.5	7.5	10	4	6	13	19	10	1.5	5.5	105

5) 不知ら水(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
団体若年定		2	3										15
土壌改良		3	3										9
草生管理			2						2				10
施肥				0.5									0.5
防除					1		1		1				3
雑草						10	10	5	5	5	4		49
収穫出荷	10	28	10	5	5	4							62
その他			1	1	1								4
計	10	29	11	6.5	11	16	9	4	2	2	0	0	105
月計	50	33.5	15	9.5	4.5	29	11	17.5	13	2	0.5	0.5	186

6) 津之草(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
団体若年定		2	3										15
土壌改良		3	3										9
草生管理			2						2				10
施肥				0.5									0.5
防除					1		1		1				3
雑草						10	10	5	5	5	4		49
収穫出荷	10	28	10	5	5	4							62
その他			2	2	2								6
計	10	29	11	6.5	11	16	9	4	2	2	0	0	105
月計	48	33.5	17	9.5	4.5	29	11	17.5	13	2	0.5	0.5	186

総労働時間

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
総労働時間	80	163	253	267.5	190	215	182.5	292	197	225	100	100	225
うち管理労働	80	163	178	192	190	180	182.5	190	180	180	180	180	180
うち雇用労働	0	0	75	75.5	0	23	0	72	0	35	0	0	223
うち雇用労働(臨時)	0	0	75	75.5	0	23	0	72	0	35	0	0	223
うち雇用労働(臨時)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	80	163	253	267.5	190	215	182.5	292	197	225	100	100	225
月計	48	33.5	17	9.5	4.5	29	11	17.5	13	2	0.5	0.5	186